

認定こども園における実習生が撮影した写真の実習記録への活用

亀山 秀郎 佐竹 智恵子 志方 智恵子
(認定こども園七松幼稚園)

本実践では、幼稚園教育実習と保育所実習の双方を受け入れる認定こども園において実習を行った実習生が、実習中にデジタルカメラを用いて保育環境の写真撮影を行い、保育環境の写真を実習記録に活用することの意義を考察した。本実践は、実習生 22 名が保育後に撮影した 278 枚の保育環境の写真と実習記録、そして質問紙調査から分析を行った。保育環境の写真は、保育室内の単一の保育環境や、複数の保育環境を撮影した写真、保育室を広範囲に撮影した写真、保育室外を撮影した写真、園庭や園外保育を撮影した写真に分類した。実習記録の記述には、写っている保育環境についての記述と共に、保育環境に対して関わる様々な人との関わりについてまで言及している記述もあった。また、質問紙調査の結果から、実習生が写真を撮影して、実習記録に生かすことで振り返りやすさ、保育環境の意味とそこに関わる子どもや保育者の関わりを多様に捉えることが明らかとなった。

キーワード：認定こども園 実習生 保育環境 写真 実習記録

1 目的

2018 年に新しい保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、求められる教育・保育が変わる中、保育者養成校においてもそのような変化に対応できる学生の養成は急務である。しかしながら、林ら（2012）は、保育職への夢を抱いて入学しても、現実的な問題と向き合う中で、自身の適正感について自問自答し、最終的には保育職を諦めてしまう学生が少なくないことを述べている。その中でも保育施設における実習は、学生にとって大きな転換点となりうる。全国保育士養成協議会（2017）の調査によると、保育所実習を通して一層保育者になる意識を高める者がいる。その一方で実習記録を書くことの負担やフィードバックが上手くいっていないケースが報告されている。保育所での実習中の実習記録に対して、実習生が不安や負担とを感じるのも 1 つの問題として挙げられる。大江ら（2015）によると幼稚園教育実習でも実習記録が、実習生の思考を深めるためにうまく機能していないことを述べている。このように保育所実習と幼稚園教育実習における実習記録の課題には、効果的に振り返ることや、思考を深める方法を模索する必要がある。

この幼稚園教育実習・保育所実習における実習記録について、養成校では様々な取り組みが行われている。全国保育士養成協議会（2018）の保育所実習ミニマムスタンダードの中では、発展的、先駆的事例として、実習記録の中に時系列で記録するものでなく、エピソード型の記録を実践として取り上げ、その意義を述べている。前述の大江ら（2015）によると、実習生がエピソード形式の実習記録をとることによって、最初の実習では保育者の姿から全体的な保育イメージと保育者役割を掴み、次の実習で子どもとの関わりを模索し始め、最後の実習では関わりを生む過程に焦点を当てて学ぶ実習生の実情を報告している。亀山（2018）によると、このようなエピソード形式の記録を実践する際には、写真や動画を用いて実習前に子どもの気持ち等を読み取る練習をしてから実習で実践することを実習生向けの教科書の中で薦めている。

また、フレーベル館の保育ナビ（2018）で紹介されている玉川大学幼稚園・保育所実習協議会の実践では、ドキュメンテーション型実習日誌の実践が取り上げられている。子どもを長期間捉え続ける中で、子どもの眩きに気づき、遊びの展開や発展に気づく効果を報告している。このように様々な、実習生に対する取り組みが述べられているが、玉川大学の実践した事例の中で用いられているドキュメンテーションでは、実習生がデジタルカメラで撮影したものを綴っている。

近年、保育現場においてもデジタルカメラを用いた園内研修や、保育の振り返りの実践報告も多い。瀧川 (2016) は、写真を活用した保育の振り返りと園内研修の手法の提案を述べており、①写真を撮る、②なぜその写真を選んだか考える、③写真について語る (語る中で気づき)、④子どもの姿や保育者の関わり、保育環境の意味を考える、⑤学び・気づきの内面化 (その後の保育に生かしてみる) というサイクルを提示しており、振り返りや園内研修による視点の深まりを示唆している。また、Benesse 次世代育成研究所 (2013) で紹介されている「写真を活用した園内研修」においては、保育者自身が用意した保育に関する写真について相手に語ることで、自分の保育観・子ども観が表れ、それが他者に写真とともに伝わると述べている。また、このような手法を取ることで、園内研修に参加保育者の主体的・能動的な学びや気づきが引き出されやすいと述べている。

写真を使った園内研修に、2011 年から 2015 年にかけての研究で秋田ら (2018) の研究グループが開発した PEMQ (Photo Evaluation Method of Quality : 保育環境の質を写真によって評価していく方法) という手法がある。上田 (2013) によると PEMQ を研修に用いることで、「保育環境を写真に撮ることで、どのようなものが用意され、使われているのかをじっくり観察できる」、「限定的な構図であっても (だからこそ)、そこに込められた保育者の意図や保育のねらいを読み取ることができる」、「環境構成という静的なものを対象とすることで、環境構成に込められた安定的な保育者の意図を捉える」と述べている。

亀山 (2018) は、養成校の保育内容「環境」の講義において、この PEMQ 手法を使って実践している。この実践では、養成校の学生が 1 枚の写真を併設の認定こども園において撮影して、その撮影した写真から保育環境の多様な意味を見つけていることが報告されている。

これらの点を考慮すると、幼稚園教育実習と保育所実習の実習記録には、これまでの書式ではない記録方法に実習生の学びがあることが示唆されていること、そしてデジタルカメラを用いて保育環境の写真等を撮影し、それをもとに保育者と議論することによる学びが多様で、視点を深めることに寄与することが伺える。

そこで、本実践では幼稚園教育実習、保育所実習双方を受け入れる、認定こども園における実習生に対して、デジタルカメラを用いて保育環境の写真を撮影する実践を行い、撮影した保育環境の写真を実習記録に用いることの意義について考察する。

2 実践方法

(1) 対象者

認定こども園 A 園 (認可定員 466 名) で実習を行った学生 27 名中、写真と実習記録の研究利用について養成校及び本人からの了承と、写真と写真に対する実習記録のコメントが全ての実習期間中分そろっている 22 名分のデータであった (表 1)。

表 1 対象者の属性

実習期間	専門 学校生	短期 大学生	四年制 大学性	短期大学生 (通信制)	計
約4週間	1	3	6	1	11
約3週間	3	2	1	0	6
約2週間	0	4	1	0	5
	4	9	8	1	22

なお対象者の中には、約 4 週間の実習を受けた短期大学生に男性が 1 名おり、その他の実習生は女性であった。さらに 22 名の内、幼稚園教育実習として 21 名、実習期間が約 2 週間の短期大学生に保育所実習として 1 名いた。

(2) 実践期間

2018年5月28日～11月30日。調査期間中、関西圏で起こった地震、台風による臨時休園が発生したが、土曜日等に全て実習振替日を設けてその際の記録と写真も調査対象としている。

(3) 保育環境の写真撮影について

養成校の学生に対して、実習前の事前オリエンテーションの際に、実習を行った保育環境の写真を表2のように、その日のうちに撮影することを説明した。また、撮影の目的については、環境を通じた保育について学ぶため、写真を撮影することで保育環境に目を向けられるようにすること、そしてその保育環境の写真を活用することにより実習担当保育教諭との実習協議で話題として取り上げやすくすることを伝えた。

その上で撮影の観点については、①実習期間中、毎朝実習担当の保育教諭から聞いた1日の保育のねらいをできるだけ踏まえること。②物的環境なので、子どもがそこにいることを想定して撮影し、必要に応じて写真の上にその様子を記載しても良いこと。③その写真を用いて毎日の実習終了後、実習担当保育教諭と協議を行うことの3点を伝えた。

表2 保育環境の写真撮影するまでの流れ

時間	実習内容（例：通常保育日）
①8：30～14：00	教育・保育実習時間
②14：00～15：00	保育室の清掃活動と共に撮影したい保育環境の確認、撮影
③15：00～	保育環境写真の印刷（責任実習の際は、責任実習協議後に印刷）
④16：20～16：30	保育環境写真を用いた実習協議
⑤16：30～	帰宅後、保育環境写真を添付して実習記録の記載

補足：保育所実習の場合は、未満児の午睡中に②と③を行った。

(4) 実習記録への添付と記載について

各養成校の実習記録の様式が違うため、保育環境の写真は、実習記録の末尾の実習担当保育教諭との協議の欄や、その日の振り返りの欄に添付、もしくは両方の欄にかぶさるように添付するように指示した。また、その添付した写真について実習担当保育教諭とどのような協議をしたか、その写真を通してどのような学びがあったかを記載するようにした。

また、養成校の中には、その日の実習記録以外に「その日の環境構成等」や「その日のエピソード」といった別様式があったため、そのような様式を採用している場合は、別様式の中に写真を添付して、記載するように伝えた。

(5) 質問紙の配布

実習最終日に質問紙を配布して、6問の設問に対して自由記述で回答を求めた。設問については、実習生にとって、写真を実習記録や実習協議に活用することの良かった点と課題点を探れるようにした。

(6) 倫理的配慮

養成校の学生に対して書面での説明、匿名性と成績への反映がないことを確認して了承を得た者のみ調査対象者とした。また、実習担当教員宛てに研究内容、匿名性と成績への反映がないことを説明した文章を入れた手紙を実習生経由で手渡した。そして、返信用封筒で同意の返答を得た大学のみ調査対象とした。

また、認定こども園A園に対しては、子どもの個人情報保護の観点から、写真撮影の際に子どもの名前や子どもの顔が表示されている保育環境は撮影しない旨、説明を行った。

撮影については、実習生用のSDカード記録式デジタルカメラを用意した。印刷については、SDカードをプリンターに差し込み、印刷指定することでL版の印刷が可能なものを用意した。これにより、実習協議前までに印刷ができ、デジタルカメラのデータが園外に持ち出されないように留意した。

(7) 分析方法

撮影された写真については、養成校において実習指導経験のある筆者及び A 園の副園長、主幹保育教諭と協議し分類し、記述された文章と共に考察した。また、その写真の内、写真と保育のねらいとの関わりのあるものも抽出した。認定こども園における保育所実習の実習生もいたため、幼稚園教育実習の実習生との写真の違いについても考察した。

質問紙については、自由記述から、本実践の良かった点や課題点等、実習記録や実習協議に活用できたかについて取り上げた。

3 結果と考察

(1) 分類した写真について

収集された 278 枚の写真进行分类し、保育のねらいとの繋がりを検討したところ表 3 のように分類された。また、写真 1~6 は、表 3 に分類した一例の写真である。

表 3 実習生の撮影した写真・記述の分類と写真の枚数・割合

保育室内の単一の保育環境の写真・記述はその利用と役割を記載	54	19%	(13)
保育室内の単一の保育環境の写真・記述はその役割だけでなく、保育環境を通した多様な人（保育者・子ども・実習生）との関わり等を記載	40	19%	(17)
保育室内の複数の保育環境の利用と役割を記載	24	9%	(4)
保育室内の複数の保育環境の写真・記述はその役割だけでなく、保育環境を通した多様な人（保育者・子ども・実習生）との関わり等を記載	26	19%	(4)
保育室の広範囲を捉えた写真・記述は全体的な利用と役割を記載	12	4%	(3)
保育室の広範囲を捉えた写真・記述は全体的な利用と役割だけでなく、保育環境を通した多様な人（保育者・子ども・実習生）との関わり等を記載	38	14%	(16)
保育室外（廊下、ベランダ、遊戯室、3F）の園舎内で単一の保育環境の写真・記述はその利用と役割を記載	38	14%	(8)
保育室外（廊下、ベランダ、遊戯室、3F）の園舎内で複数の保育環境の写真・記述はその利用と役割のだけでなく、保育環境を通した多様な人（保育者・子ども・実習生）との関わり等を記載	13	5%	(7)
園庭で単一の保育環境の写真・記述はその利用と役割を記載	8	3%	(0)
園庭での複数の保育環境（エリア）の写真・記述はその役割だけでなく、保育環境を通した多様な人（保育者・子ども・実習生）との関わり等を記載	14	5%	(7)
園庭外、園外保育などでの保育環境（エリア）の写真・記述はその役割だけでなく、保育環境を通した多様な人（保育者・子ども・実習生）との関わり等を記載	11	4%	(8)

（括弧内の数字は保育のねらいとの関連枚数）

多くの実習生が単一の保育環境を撮影しており、実習当日に子どもと、その保育環境との関わりで印象深かった物を撮影していることが考えられる。さらに、写真 1 のように単一の保育環境から多様な人との関わりまで記述しているものもあり、保育のねらいとの関連も他の写真よりも多かった。単一の保育環境の写真は撮影もしやすいと共に、その日の保育のねらいを象徴的に表していることが伺える。

複数の保育環境にある物と、そこに関わる子ども達の様子が記述されていた写真は、写真 2 のように複数の物的環境の写真と、写真 3 のように保育室全体の写真に分けた。写真 2 については、複数の物的環境がある、コーナー保育等の保育環境を撮影したものである。写真には多様な物と子どもの関わり、そのコーナーでの子ども同士の関わり、実習生が中心となった部分実習や責任実習の日のものが見られた。写真 3 については、保育室全体を撮影して、クラス全体の活動を写真で表したものであった。また子どもと保育室全体の保育環境の意味を記述していた。複数の物的環境の写真には、コーナー保育を取り上げたものも多く、そこでの多様な関わりが印象深く写真に捉えていることが推察される。なお、部分実習や責任実習等においては実習生自身が、保育環境の中に保育のねらいを込めていることが考えられる。

保育室以外の園舎内の写真では、掲示物や曲がり角での子ども同士の衝突を防ぐための鏡や表示などの安全への配慮などを捉えた写真が多かった。A園では廊下等に子どもや保護者に対して伝える掲示物を保育環境として配置していることや、廊下や階段に鏡等を配置していることから、そこでの安全面への配慮や子どもが鏡に対してどのような思いを持っているかまで撮影した後、記述しているものがあつた（写真4）。

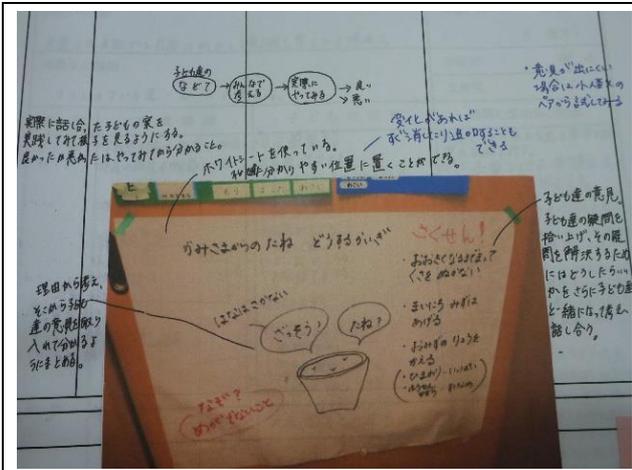


写真1 保育室内の単一の保育環境の写真・記述はその役割だけでなく、保育環境を通した多様な人(保育者・子ども・実習生)との関わり等を記載

写真例<保育室の植えた種に関する掲示物>

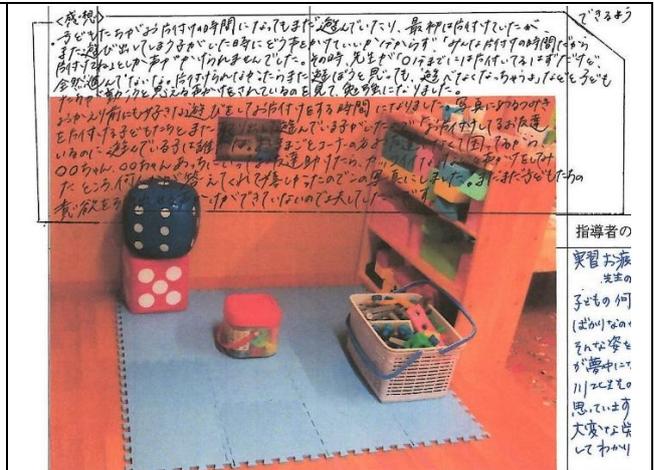


写真2 保育室内の複数の保育環境の写真・記述はその役割だけでなく、保育環境を通した多様な人(保育者・子ども・実習生)との関わり等を記載

写真例<様々なブロックが使えるコーナー>

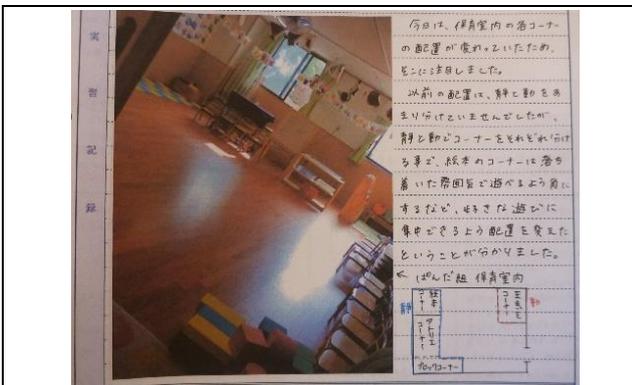


写真3 保育室の広範囲を捉えた写真・記述は全体的な利用と役割だけでなく、保育環境を通した多様な人(保育者・子ども・実習生)との関わり等を記載

写真例<昨日から変わった保育室の環境構成>

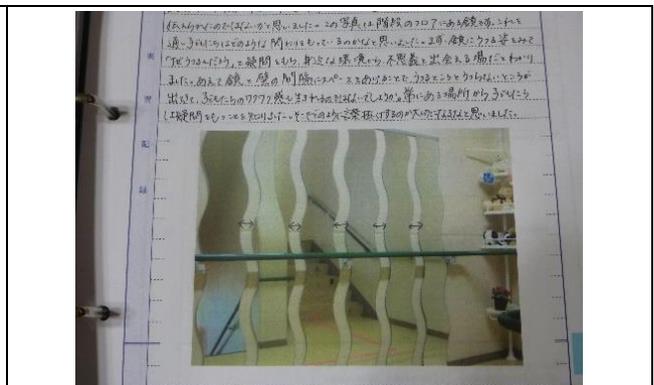
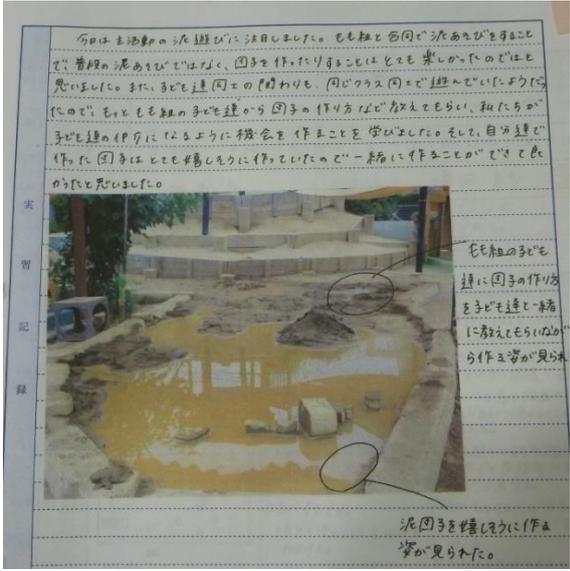
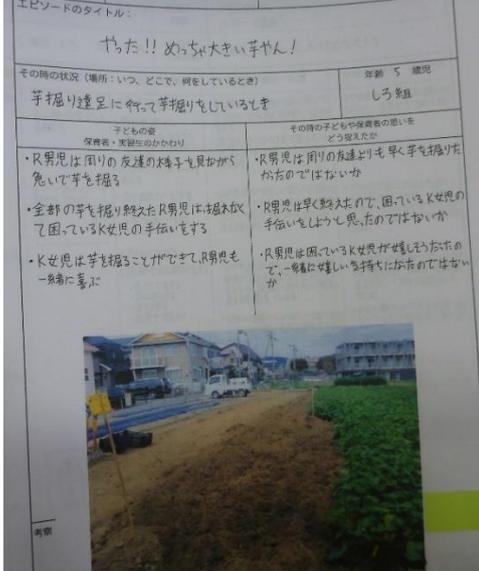


写真4 保育室以外(廊下、ペランダ、遊戯室、3F)の園舎内で複数の保育環境の写真・記述はその利用と役割だけでなく、保育環境を通した多様な人(保育者・子ども・実習生)との関わり等を記載

写真例<階段踊り場にある鏡>

屋外の保育環境の写真では、多様な子ども同士の関わり、子どもと保育者との関わりや保育環境の意味について記述しているものがみられた。園庭では、実習生の配属クラスだけでなく、他のクラスや学年の子ども同士、保育者が関わりあうため、多様な関わりについて記述していると考えられる(写真5)。

園外保育をしている際の写真では、その全てが保育のねらいと関わりある写真が撮影されていた。園外保育は、A園においては公園での運動会の練習や、遠足といった行事の写真として撮影されており、保育のねらいに反映した場所の写真として取り上げられ記述されていることが考えられる(写真6)。

	
<p>写真 5 園庭での複数の保育環境(エリア)の写真・記述はその役割だけでなく、保育環境を通した多様な人(保育者・子ども・実習生)との関わり等を記載</p> <p>写真例<遊んでいる時に水浸しとなった園庭砂場></p>	<p>写真 6 園庭外、園外保育などでの保育環境(エリア)の写真・記述はその役割だけでなく、保育環境を通した多様な人(保育者・子ども・実習生)との関わり等を記載</p> <p>写真例<芋掘り遠足の時の畑・実習記録はエピソード型記述式のものに写真を添付></p>

また、認定こども園における保育所実習に来た実習生の写真の詳細を見ると、対象物に接近した写真や、廊下や遊戯室といった子どもがいない場所の写真だけであった。実践を行った A 園は、幼稚園由来の認定こども園であり、1号認定児が多い。しかし、2・3号認定児が多くいる認定こども園や保育所においては、保育室に常に子どもがいるため、子どもが映り込まないように、子どもがいることを想定した保育環境の写真を撮影することが難しいと考えられる。

(2) 質問紙調査について

質問紙への回答件数は、表 4 のとおりであった。

表 4 質問紙調査で得られた自由記述の回答数

質問項目	回答数
Q1 写真を用いた実習日誌作成について良かった点	17件
Q2 その日のねらい・活動と写真との繋がりを意識して撮影する際、難しかった点	16件
Q3 その日のねらい・活動と写真との繋がりを記録にする際、難しかった点	13件
Q4 担当保育者との写真を用いた協議の中で、分かりにくいことや、難しかった点	13件
Q5 写真を用いた実習日誌書き方について、分かりにくいことや、難しかった点	14件
Q6 その他お気づきの点	6件

「Q1 写真を用いた実習日誌作成について良かった点」に対しては、実習生全員が写真をとることによって、その日の保育について振り返りやすかったことや、保育環境の意味について理解が深まったといった回答をした。実習後自ら撮影した写真を見ることにより、1日の保育や実習協議における保育環境の意味について振り返りやすくなったことが考えられる。

「Q2 その日のねらい・活動と写真との繋がりを意識して撮影する際、難しかった点」に対しては、保育後の撮影になるので、印象に残った時の保育環境を再現することが難しかったことや、その日の保育のねらいが気象等で変更になった時、どのような写真にすればよいか分からなかった点が挙げられた。

保育中の出来事は連続して起こるため、写真を事後に撮影する場合、再現が難しいことや突発的な変更については捉えられないことが推察される。

「Q3 その日のねらい・活動と写真との繋がりを記録にする際、難しかった点」に対しては、子ども同士の様子が写真に記録できないため、子ども同士のやり取りが記載できにくいことが挙げられた。実習生の中には、写真の中に「棒人間」を記載して子ども同士のやり取りを記載している者もいたが、再現が難しいことや、労力がかかるためか記録の中に留めにくいことが考えられる。

「Q4 担当保育者との写真を用いた協議の中で、分かりにくいことや、難しかった点」に対しては、子どものいない保育環境であるため、その情景を実習担当保育教諭にうまく伝えることが難しいことが挙げられた。写真撮影の視点は、実習生の視点であるため、写真にある保育環境やその時の様子を保育者が見ていない可能性がある。このため、言葉により伝えることが実習生にとっては難しかったと考えられる。

「Q5 写真を用いた実習日誌書き方について、分かりにくいことや、難しかった点」に対しては、本来文章を記述する場所に写真を貼るため、どの程度1日の振り返りを記載すれば良いか分かりにくかったという意見が挙げられた。小山(2007)は、エピソード記録の利点を生かすためには、学生の書く能力を向上させる必要性を述べている。本実践でも同じことが言え、写真に対しての記述量とその内容について学生自身が実習担当保育教諭の指導を仰ぎながら考えられるようにする必要性があると言える。書式は、学校指定と別の用紙に書くなど写真6のようにエピソード型記述式の実習記録に写真を添付する方が、実習生も貼る場所や記述量を迷わず記述することも想定される。

「Q6 その他お気づきの点」に対しては、担当クラスによっては、1号認定児の預かり保育と2号認定児の保育を同じ保育室で行っており、14時から15時の撮影予定時間に子ども達がいるため、保育環境の写真を撮るタイミングが難しいという回答を得た。この回答は、2018年の阪神間での台風災害の際、幼稚園教育実習の予備日として土曜日預かり保育で実習を行った学生の記述であった。認定こども園では、2号認定児が実習時間中、常に保育室にいる場合もあるため、子どものいない保育環境の写真を撮影することが難しいことが考えられる。

質問紙調査の結果では、実習中の記憶を思い出すことに役立つことや、協議において保育環境の意味を実習担当保育教諭と話すことで、その意味を深く考えることに繋がったと考えられる。一方で、写真と保育のねらいとの繋がり、保育中の子どもを撮影できないことや、記録用紙の書式上の問題等の課題があることが分かった。

4 総合考察

実践結果から総合考察すると、以下の5点の意義が見出された。①実習記録にその日の保育のねらいの象徴的な保育環境を写真として捉えることができる。②写真から子どもと保育室全体の保育環境の意味を捉えることができる。③写真から保育環境による子どもへの安全配慮について捉えることができる。④屋外の保育環境の写真から、実習生の担当クラスだけでなく、他のクラスの子どもの保育教諭の関わりについても捉えることができる。⑤園外保育の写真から保育のねらいに反映した場所について捉えることができる。

また、質問紙調査からは、1日の保育や実習協議の際に、保育環境の意味が振り返りやすいことや、保育環境の意味やそこに関わる子ども、保育教諭の関わりを多様に捉えることが挙げられた。しかし、保育後に写真を撮影するため、保育中の状況の再現が難しいこと、子ども同士のやり取りを記述することの難しさ、撮影した写真の状況を実習担当保育教諭が知らない場合、実習担当保育教諭と共有しにくいことが分かった。そして幼稚園の場合は、教育標準時間後に空いた保育室で撮影することができるが、認定こども園の場合は、長時間保育を受ける子どもが在園し、保育室にいる場合、保育環境の写真が撮りにくいことが明らかとなった。この点は保育所においてこの実践を行った時にも課題になると考えられる。

さらに、写真の分類については、写真と保育のねらいとの繋がりが多く反映されていたのは、園外保育の写真のみだった。1 日の保育のねらいが保育環境にどのように反映されているか実習生に理解を進めるには、実習担当保育教諭との協議内容の検討、反映されていない時の保育環境から得られる別の学び等、さらなる調査が必要と思われる。

1 日の実習の中で多くの出来事が起こるため、保育後にその状況を再現し、撮影する難しさがあると推察される。これにより実習生は単一の保育環境を撮影して、協議に取り上げ振り返りに留めている事例もあることが推察された。保育環境の写真を実習記録に生かす際、実習担当保育教諭が実習生に対して、単一から複数の保育環境に目を向けられる撮影を促し、そこでの人のやり取り、保育のねらいとの繋がりを、協議の中で伝えていくことによりこの実践の意義が深まることが示唆された。さらに保育所実習など 2・3 号認定児といった長時間子どもが在園している場合、子どもの個人情報を守りつつ、撮影することの課題については、今後新たな方法を模索したい。

引用文献

- 秋田喜代美他 (2018) 写真から振り返る保育の質—写真をもとに保育環境の質を評価する方法—Photo Evaluation Method of Quality 実践事例集 平成 23—27 年度文部科学省科学研究費基盤研究 (A) 保育・教育の質が幼児・児童の発達に与える影響の検討 (研究代表者: 秋田喜代美 課題番号 23243079) の成果の一環として作成された事例集. 65-79
- Benesse 次世代育成研究所 (2013) これからの幼児教育
https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/booklet_19_p2-11.pdf. 2-11 (平成 31 年 1 月 30 日アクセス)
- 林悠子・森本美佐・東村知子 (2012) 保育者養成校に求められる学生の資質について—保育現場へのアンケート調査より—. 奈良文化女子短期大学紀要. 43. 127-134
- フレーベル館 (2018) 保育ナビ. 第 9 巻(4). 28-33
- 亀山秀郎 (2015) 保育者養成校の学生による同一写真を用いた PEMQ の実践. 日本保育学会第 68 回大会論文集. 450
- 亀山秀郎編著 (2018) 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習 (MINERVA はじめて学ぶ保育 ; 10). ミネルヴァ書房. 100-103
- 小山祥子 (2007) 幼児理解と保育者の援理解を深める保育記録に関する研究 (II) —エピソード記録型実習日誌の効用と課題—. 北陸学院短期大学紀要. 39. 45-58
- 大江まゆ子・大谷彰子・木下隆志 (2015) 保育者志望学生の実習累積による変容過程に関する一考察—エピソード形式の実習記録からみる学生の学びと育ち. 保育士養成研究. (33). 1-10
- 瀧川光治 (2016) 写真を活用した保育の振り返りと園内研修の手法の提案—アクティブ・ラーニング型園内研修の 1 つとして—. 大阪総合保育大学紀要. 10. 287-298
- 上田敏文 (2013) 保育環境の中に見る保育者の専門性. 「発達」. 134. ミネルヴァ書房. 28-33
- 全国保育士養成協議会 (2017) 平成 29 年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業 (厚生労働省) 保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究.
http://www.hoyokyo.or.jp/http://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/study/29report%20part1.pdf
 (平成 31 年 1 月 30 日アクセス)
- 全国保育士養成協議会編集 (2018) 保育実習指導のミニマムスタンダード: 「協働」する保育士養成 Ver. 2. 中央法規出版. 154

謝辞

本実践を行うにあたり、A 園での実習記録の複写、質問紙調査協力をご了承頂いた、実習生及び養成校の実習担当者の方々に深く御礼申し上げます。またお忙しい中、本論を査読して下さいました先生に感謝申し上げます。